

くまざさ

新らしい百年へ次の一歩

自ら考える力をつけて

第37代校長 遠藤孝一さん

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。



「生徒と一緒に悩み、考えてあげられるような教師になることが大切」と遠藤校長

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

折からの新型コロナウイルス禍により、全国的な休校措置が取られていた昨年4月、第37代校長として着任された遠藤孝一先生は、1962(昭和37)年の生まれ。道北・旭川市の出身で、旭川東高から道教大旭川校を経て、利尻高校から教員人生をスタートされました。湖陵高校は8校目の赴任となります。

西村貞広(湖陵30期)

目次

活躍する湖陵生	2
誠愛勇から25期	3
応援歌などを楽譜に	4、5
同窓会からタブレット	6

学園だより	7
石橋さん、田巻さんが出版	8
編集後記	8

北大通は私の出身地

(株)丸毛呉服店

畑美貴子さん(湖陵50期)

地元・鉦路市において最も地価の高い、駅前地区および幣舞橋までの道路沿いの北大通地区には、戦後から多くの老舗店舗が存在していました。中でも平成の初め頃までは通学のためのバス利用者も多く、バス待ちの湖陵生も大勢見かけたものでした。そんな、まだゲームセンターや映画館が北大通にあった時代に畑さんは湖陵生でした。

「商家の娘が家業を継ぐというのは、

「畑違い」の会社で10年



「ブラバンでトランペットを吹いていました」と畑さん

を養うために、また多くの女性店員を抱えていたこともあって、一族の生業のための商売を継ぐのは女性でも当たり前の気風だったそうです。旧戸籍法の時代のこと、監督を継いだ者は全財産の所有者

となり、兄弟たちも一族の慶弔時にはお金を出す役割がありました。そのため、うちの店では親戚一同で店員を務めて社員を統率し、好景気の波にも乗って大きく発展することができたそうです」と、店の暖簾を語ります。そんな話を伺えば、男兄弟のいない畑さんが店を継いだのも、至極普通の事なのかもしれません。

湖陵高校を卒業後は地元の大学に進学。経営を学ぶも卒業後すぐに家業に入らずに、全く畑違いの会社で10年を過ごしたという畑さん。「私は経営学部に進みましたので、着物屋であろうが医療機関であろうが、組織を運営するという視点に立って物事を見れば、全ての営みは共通だと思えます」と看破。「呉服業界というのは、まさに人生の交差点である」とも話します。

「京都の製造元の作家から鉦路の消費者へ、呉服の展示販売会での旅行からイベントの企画まで、お客様の満足のために年間を通して立案するやり方を、先代である父は長年続けてきました。だから幅広い知識が必要な世界なのです」と明るく語る畑さん。「私の勉強の目的は、全て親孝行のためでした」と話す姿が印象的でした。「店舗の地下には蒸気ボイラーがあって、資格のある者が操作しなければならぬため、私が資格を取りました。もともと理科系が得意でしたので、これが役立ちました」とも。「高齢の祖父に対して孝行ができました」とうれし

そうに語る畑さん。有資格者を雇う方法もある中、自分自身で技量を身に付けようとする姿に頭が下がります。他にも一定数以上の社員がいる企業に必要な国家資格「第一種衛生管理者」や「危険物取扱者」の資格まで所持しているそうです。現在は成年後見人制度を勉強中で、「市民成年後見人養成講座」を終了してバンクに登録し、活動を続けています。

「今は、うつ病の発生とその予防を研究していて、シニアライフカウンセラー上級も取りました。お店に来られるお客様もだんだんと高齢化し、もともと『おしゃべりサロン』的役割があり、地域に開放的な店舗ですから、私はこの北大通で『人生の交差点』として気付きにつながるアドバイスを、呉服に関することはもちろん、社会福祉や法令に関することまで、私の学んだ知識を地域の皆さんにお伝えできたら幸せです」と熱く語りま

す。現在、畑さんの長女が3年生に在籍している他、中学3年の次女も受験を終えて合格発表待ち。「昔から親子で同窓生になるのが夢でした」と語る畑さん。在校生に対して「やがて社会に旅立つ皆さんと、社会の一員同士として交流できたら幸せです」とうれしそうです。

今や社会問題でもある「街の空洞化」に立ち向かう、向上心にあふれた元湖陵生がここにいました。

西村貞広(湖陵30期)

思い出語る場に

湖陵25期 C組 代表幹事 平尾 憲明



一年に一度の同期会に参加した仲間

我が25期同期会は、卒業年から令和3年3月で48年が経過いたしました。

25期メンバーもあと少しで古希を迎える年齢になります。そんな我々が在籍し、富士見町にあった学校校舎(旧校舎)の建て替え移転もあり、当時の湖陵高校に対する一抹の寂しさと共に、あの当時の懐かしさを思



毎回盛り上がる同期会

い出している今日この頃です。

我が25期同期会は平成9年からスタートし、幹事は卒業時のクラス単位毎とし、1年毎に次のクラスへバトンタッチします。その毎年恒例のお盆前後に開催予定の同期会を、令和2年は昨今流行の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発出もあり、収束する気配もないことから止む無く令和3年9月に延期といたしました。

そのような中で我が25期同期会の仲間も、近々卒業から50年の節目を迎えます。

北海道立釧路湖陵高等学校(旧校舎)という有形な我々の青春の拠り所は無くなりまし



還暦を記念してつくった石碑

たが、無形の思い出と同期の素晴らしい仲間達という拠り所は、いつでも心の中に残っています。25期同期会がこのまま盛大に続くことを祈ります。

今後も「旧校舎」で過ごした、それぞれの思い出を語り合える機会として、今後もたくさんさんの25期同期会にご参加いただき盛り上がる同期会にしたいと思えます。

これからも引き続き、同期会皆様のご支援ご協力を心からお願いいたします。



同期会の幹事はクラス毎に一年交代

応援歌などを楽譜に 同窓生で音楽科教諭の高坂さん

釧路湖陵高校の音楽科教諭、高坂良修さん（湖陵31期）が、校歌や壮行歌、応援歌、寮歌を後世に残すため楽譜に落とす作業を、同校の国語科教諭を長年務めていた高井博司さん（湖陵6期）とともに進めています。高坂さんは「楽譜がすべて完成したら、同窓会のホームページで公開し、各地に散らばっている同窓生に歌ってもらい、高校時代を思い出してほしい」と話しています。

壮行歌や応援歌といえは、年齢の高い同窓生にとっては「入学して間もなく体育館に集まり、応援団の指導を受けた」という記憶がよみがえるのではないのでしょうか？ところが、壮行歌や応援歌には楽譜はありませんでした。

校歌は、北海道教育大学釧路校名誉教授で釧路地区吹奏楽連盟名誉理事長などを務めた佐藤昌之さん（湖陵2期）が吹奏楽用に編曲し、長年にわたり器楽部で受け継がれていました。

楽譜の話が出たのは、2012年に開校100周年・定時制90周年の式典を行った時で、同窓会は「これを機に、応援歌などを記録として残したい」と考えました。その意向は13年から湖陵高校に赴任した高坂さんに伝えられました。そして、100周年記念誌の編集委員長で、1978年に校歌、壮行歌、応援歌1〜3までのレコーディングを監修した高井さんが全面的に協力することになりました。



校歌や壮行歌、応援歌、寮歌を後世に残そうとしている高坂さん

校歌の楽譜にはメモ書きがたくさん加えられ、また、壮行歌や応援歌は歴代の応援団が歌って後輩に代々伝えてきたもの。年代によって音程や拍子が微妙に違いました。そこで高坂さんは、「だれでも歌えるように、できるだけキーを合わせました」。

さて、寮歌があつたのはご存じでしょうか？正確には北海道庁釧路中学校寄宿舎寮歌。「くまざと」21号で当時の編集委員長だった奥田達也さん（湖陵1期）が一度ひもといっています。今回、寮生だった小森昭さん（釧中32期）の資料をもとに楽譜をつくりました。

また、生徒手帳には応援歌は6番までしか載っていないのですが、7、8番もあります。7番は釧路市の「市民大運動会」で陸上部選手団に向けての応援、8番は童謡「はなさかじいさん」の替え歌です。

毎年夏に釧路市内で開催される釧中・湖陵同窓会総会で配布される資料には、校歌、壮行歌、応援歌1〜8、寮歌の歌詞が載っています。でも、すべてを正確に歌える人は何人いらっしゃるのでしょうか。

ところで、高坂さんは合唱部を中心に応援団、野球部が合同で歌って全曲を録音する作業も行う予定でした。そうすれば、同窓生もそれを参考に歌うことができます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動にも制限があり、なかなか作業が進みません。それでも高坂さんは「今年3月で定年を迎えますので、それまでには終わらせたいですね」と話していました。

星 匠（湖陵30期）

【校歌】

1 日出づる国の北陸に
神祕を削る丈夫の
関十一州に反響して
曙光あまねし蝦夷が原
瞻よ東方の釧路岬
湖陵に立てる我が学舎

2 攻学の心自治の魂
久遠の使命胸に秘め
鈴蘭薫る春採の
丘に微笑む若人が
誠を雪に類へつつ
理想は高し阿寒山

3 学の苑に旦暮の
師恩を讃う三星霜
愛ゆかしき兄弟よ
吹雪く曠野も荒海も
訓の道を守りつつ
共に進まん勇ましく

【壮行歌】

1 時こそ来つれ行け健児行け
健児
熱血燃ゆる若人の
正義の技をいざ示せ
立て立て今ぞ力の限り
りんたる湖陵健男児

2 時こそ来つれいざ選手いざ
選手
戦わんかな潔く
勝利は戦の花なるぞ
謳え今ぞ力の限り
無敵の湖陵健男児

※2番の歌詞は存在しますが、歌われることはなかったようです。

3 青葉に映ゆる大旆の大旆の
はためく所敵はなく
見よ勝利は我がものぞ
謳え今ぞ声高らかに
栄えある湖陵健男児

【応援歌1】

1 湖陵に流し〇十年(百星霜)
夢よりさめし蛟竜は
今黒雲を渦巻きて
栄えある此の日うそぶかん
※「〇十年」は開校100周年の際に「百星霜」と歌った。

2 春らんまんの花朝
理想の影を仰ぐべく
守る心の気高さを
固く誓って進むらん
踊れよ叫べよ湖陵群
栄えある此の日我がものぞ
血潮は酒れ旗はさけ
倒るる迄もふるえかし

【応援歌2】

1 阿寒のお山の浅緑
今は男のこむらさき
湖陵ヶ丘に風ありて
男心の大嵐

2 怒涛さかまく太平洋
百雷どよむ涛声も
いかで勝らん正を踏み
義を見て勇む雄叫びに

3 立てよ乱打の鐘が鳴る
力と正義と俺達と
三つは湖陵の花じゃもの
真紅の旗はだてじゃない

【応援歌3】

1 東の涯に生い立ちし
此の若人の声を聞け
熱と意気とに生きんこそ
永遠に消えざる血潮なり

2 血潮は湧きて六月の
大地の眠りさまししは
我らが意気ぞ友よ友
今ぞ若きを讃美せん
3 燃ゆる心の気高さを
不倒の腕にきとうべく
同志の健児よいざ来たれ
使命を果たす時ぞ今

【応援歌4】

1 鉄腕うなり我が胸躍る
北海晴るる碧の空
我等は勝てり我等の選手
高く雄叫べ燃ゆる胸に
2 いざや叫ばん健児の凱歌
我等は握りぬ覇者の権
選手の勲我等が榮譽
戦運永劫幸我に

【応援歌5】

1 伝統長し〇十年(百星霜)
湖陵ヶ丘に生い立ちし
熱血燃ゆる若人の
正義の技をいざ示せ
※「〇十年」は開校100周年の際に「百星霜」と歌った。

2 胸は高なり血は躍る
鍛えに鍛えし此の腕
栄えある今日の一戦に
示せ若人堂々と

3 歌え健児よ声高く
大旆かざして行く所
我に刃向かう敵はなく
勝利は常に我がものぞ
※「刃向かう」はかつて「かむこう」と発音しました。

【応援歌6】

フレフレフレ我が友よ
フレフレフレ我が選手
共に勝たん勝たせなん
高く上げよ勝ちどきを

フレ湖陵フレ湖陵フレフレフレ
フレ湖陵フレ湖陵フレフレフレ

【応援歌7】

1 霊峰阿寒右手に仰ぎ
轟く大洋左手にぎよして
堂々進む気鋭の我等
勝利をしかとかざさん

2 一瞬一発霊肉燃ゆる
健脚伸ばせスパイク軽く
一気に敵を屠りてすてよ
湖陵の健児 競技団

※「市民大運動会」に参加した際、陸上競技に出場した選手団に全校応援で歌われていました。

【応援歌8】

1 弁天さんの神主が
おみくじ引いて申すには
今日も湖陵は
勝ち 勝ち 勝ち 勝ち

2 三吉さんの神主が
おみくじ引いて申すには
いつも湖陵は
勝ち 勝ち 勝ち 勝ち
※「はなさかじいさん」の替え歌

【北海道庁立釧路中学校校舎宿舎寮歌】

1 北斗の直下渺茫と
千古の森の蔭宿す
湖陵に聳ゆる自治の塔
栄光燦たり我が学舎

2 睦みは深し鈴蘭の
花咲く園にまどろめば
原始を偲ぶ斧の音
土の香嫩し蝦夷の春

3 霧立ち込む釧路川
筏に燃ゆる篝火の
灯影おぼろに流れ行く
水路遙けき三十里

4 夕日に映ゆる白樺の
梢に散るや花吹雪
水柱は銀の瓔珞か
狂ふは嵐地の調

5 理想は高し阿寒山
望みは広し太平洋
山の幸あり海の幸
結ぶ夢こそ圓かなれ





島本会長（右）から遠藤校長に目録

同窓会タブレットなど寄贈 コロナに負けないで



教材を前に同窓会と学校関係者

2020年11月25日、釧路湖陵同窓会より湖陵高校に対する教材物品の贈呈式が行われました。この日、湖陵高校校長室を訪れた島本幸一同窓会長や青木一晃幹事長らが、遠藤孝一校長に目録を手渡しました。

これは、昨今のコロナ禍により湖陵高校においても長期の休校や休講を余儀なくされたことから、学業に支障が出ているようだとの高橋徹二副会長（元PTA会長）からの提案を受け、現PTA会長である濱屋宏隆副会長が学校とも協議を重ね、役員会で審議の上で、生徒のリモート授業などに役立つ教材物品を同窓会から寄贈しようということになったものでした。

購入した教材の原資は、2012年に行われた「開校100周年記念事業」の余剰金など。これまでの積立金約200万円を用いて購入したのは、道教委が指定する11・6型の最新タブレット端末（レノボ製）33台と、充電もできる移動型の保管庫、さらに授業の現場で不足がちというプロジェクタ2台のセットです。

これにより、通常の授業においても道教委から支給された10台と合わせて、「一人一台」でのタブレット授業が行えることから、生徒諸君へのさらなる学習効果が期待されるそうです。

西村貞広（湖陵30期）

同窓会からお知らせ 今年の同窓会に向けて

例年、8月第2土曜日に開催しております釧中・湖陵高校同窓会総会は、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため令和2年度は中止しました。役員会では、この事態を受け、①会計年度を同3年度に持ち越すこと②役員改選も行わず1年間延長すること、を決めました。

今年の総会については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら判断します。決まりましたら、ホームページでお知らせします。

星 匠（湖陵30期）

この1年間はコロナ禍における活動制限のため、学校祭をはじめとする学校行事などが中止もしくは縮小になりました。過去に例のない初めての対応を迫られたものとなりました。湖陵高校での主な活動をお知らせいたします。同窓生の皆様に母校の様子を知っていただければ幸いです。

2020年

〈3月〉第72回卒業式(1日)

237名の生徒が湖陵生としての誇りと夢を抱いて学舎を巣立ちました。今回は卒業生と保護者のみの卒業式となり、われわれ同窓会の仲間に加わりました。同窓会からは記念のマフラータオルをいただきました。

高校入試(4日)

例年と変わらず普通科5間口、理数科1間口の募集です。普通科にも推薦入試が導入され、理数科とともに実施しています。多くの中学生が湖陵高校入学を目指して受験しました。より多くの意欲あふれる生徒が入学してくれることを期待しています。

大学合格発表

3年間の学習の成果が実り、多くの生徒が合格を勝ち取りました。本校生徒の多く

が希望する国公立大学には、現役で110名が合格しました。前年には及びませんでした。医学部医学科には5名、北海道大学には11名の合格者が出ました。素晴らしい結果です。浪人生も頑張りを見せてくれました。

教職員異動

12名の教職員が異動されました。転出された皆さんには在籍期間の長短はあるものの、それぞれが湖陵高校のために大きな力を尽くしていただきました。本当にどうもありがとうございました。

〈4月〉教職員異動

14名の教職員が着任されました。経験豊富なベテランからやる気満々のフレッシュな人まで様々です。どうぞよろしくお願ひします。

令和2年度入学式(8日)

237名の新入生が夢と希望を持って湖陵高校に入学しました。湖陵高校で多くのことを学び、社会へと羽ばたいてくれることを期待します。今年は、マスク着用の入学生のみとなりました。

臨時休業(20日～5月17日)

新型コロナウイルス感染症に対応するため臨時休業期間となりました。

〈5月〉分散登校(18日～31日)

各クラスを午前登校と午後登校の2グル

ープに分けて、3時間ずつ授業を展開しました。

〈6月〉通常登校再開(1日～)

クラス全員がそろっての授業が再開されました。学習の遅れを回復させることを優先に、学校行事などは延期・中止となりました。

〈7月〉部活動各種大会再開

例年実施されている高体連・高文連の支部予選や北海道予選会が中止となり、3年生にとっては涙をのんだ部活動もありました。野球部は夏季大会支部Bブロックで優勝し、北北海道大会へ出場しました。応援団、チアリーディング部はビデオ応援を行いました。

湖陵祭

多くの生徒や保護者が楽しみにしていたことと思いますが、今年度は中止になりました。

〈8月〉新人戦・高文連

多くの部が素晴らしい成績を収めました。全道大会へ出場した部活動は、ソフトテニス部、書道部、陸上競技部、写真部、テニス部、弓道部、女子バレーボール部、音楽研究部、外国語部、剣道部、ハンドボール部、男子バドミントン部、スケート部となっています。なお、書道部が国際高校生選抜書展(書の甲子園)で入選、文芸部が全国高等学校文芸コンクールで入選しています。

〈9月〉教育実習(9月4名、11月2名)

今年6名の卒業生が大学を離れて現場での実習を経験しました。生徒にとっては年齢の近い先輩であり、新鮮な気持ちで授業に取り組めたようです。コロナ禍の影響で時期が遅れましたが、どの実習生も「湖陵で実習ができてよかった」と口にしていきます。母校での貴重な経験を将来にぜひ活かしてほしいものです。

2021年

〈1月〉大学入学共通テスト(16日～17日)

今年度より、センター試験から共通テストになりました。219名の生徒が北海道教育大学釧路校と釧路公立大学に分かれて受験しました。3年生の受験率は昨年よりも多い95%弱です。

見学旅行の予定(3月6日～9日)

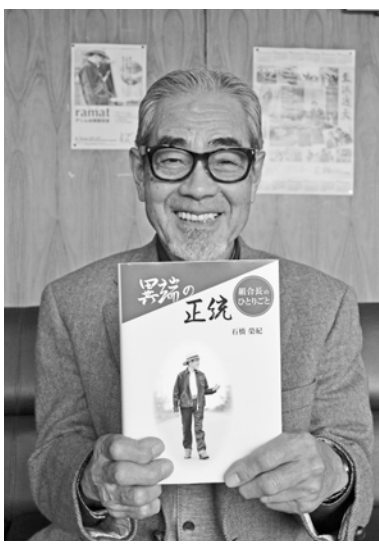
当初の予定からは二転三転して、かなりの変更になりました。函館2泊、花巻1泊の日程で、函館山、五稜郭、函館ベイエリア、中尊寺、登別マリナーパークニクスを巡る予定です。移動はバス、新幹線になっています。

以上で1年間の報告とさせていただきます。今後とも母校と後輩たちのために、どうぞよろしくお願ひいたします。

山木誠一(湖陵36期)

石橋さんと田巻さんが出版

釧路管内浜中町農協前組合長の石橋榮紀さん（湖陵11期）が、組合長時代のコラムや講演録、対談などをまとめた「異端の正統 組合長のひとりごと」を自費出版しました。また、くまざさ編集委員の田巻恒利さん（湖陵18期）は、釧路新聞のコラム「巷論」232回を収録した「私の『巷論』」を出版しました。星 匠（湖陵30期）



「農協経営を次の世代に伝えたい」と石橋さん

「異端の正統 組合長のひとりごと」

○：石橋さんは1940年に根室市で生まれました。生後まもなく、酪農を営む両親と浜中町に移住し、浜中中学校から釧路湖陵高校、千葉工業大学を卒業し64年に実家で就農しました。同農協では青年部長、専務理事などを歴任し、90年から2017年まで組合

長、そして現在は会長理事を務めています。

同書では、81年に土壤や飼料の分析や乳質を検査する農協では全国初の酪農技術センターを開設したことや、

09年に設立した企業などの新規参入を促す全国初の農協出資型農業法人「酪農王国」に代表される先進的な取り組みの経緯、タカナシ乳業や高級アイスクリーム「ハーゲンダッツ」との関わり、環太平洋洋連携協定（TPP）や国の農協改革など国内外の変化への対応とといった当時の苦労や思いがづらわれています。「酪農を取り巻く状況の変化で浮き彫りになった課題や今、いいたいことは何だろうと自問しながら書き続けていました」と振り返ります。

書名はテレビ番組出演時、作家の村上龍さんに高く評価された自身の発言を引用しました。石橋さんは「研修牧場など当時は異端といわれた取り組みが、今では当たり前になって



「市民目線を意識して」と田巻さん

「私の『巷論』」

○：田巻さんは釧路市出身。釧路湖陵高校から千葉工業大学に進み、千葉県の工場勤務を経て1974年に帰郷。家業の栄屋旅館を継ぎ、釧路市旅館組合長や釧路ふるさとカルタ協会会長などを歴任しました。

巷論の第1回は2010年8月11日。第1次ベビーブームに生まれた田巻さんは「団塊の世代を考える」をテーマに、高度経済成長を支えた世代の歩みを自身の体験と重ね合わせて紹介しました。その後は月2〜3回のペースで書き続け、時事ネタを題材にしたり、まちおこしの提言、市内イベント

の体験談、地元研究家の紹介、政治・文化・食・自然・災害などさまざまな話題を取り上げ、18年10月31日まで独自の視点から持論を展開してきました。

田巻さんは「貴重な紙面の一枠を託され、こうして一冊にまとめてみると自分でもよく書いてきたと思います。苦になったことはなく『何を書こうか』とワクワクしながら楽しい思いしかありませんでした。文筆は全くの素人ながら、市民目線を意識して提言も行いました」と話していました。（釧路新聞2021年1月17日付から引用）

編集後記

私ごとを二つ申し述べます。一つ目は、旧庶路村の初代村長をしていた宮崎佐太郎（私の曾祖父）の三男、義信（釧中8期を経て弘前大学卒業）から生前に聞いたことがあります。汽車通をして北大通、幣舞橋を通り出世坂を登ると、左に測候所（現釧路市生涯学習センター第2駐車場）があり、そこから釧中校舎まで一面くまざさが生い茂っていて人家が少なかった、と述べていました。そのことが湖陵高校の校章などに残っています。

二つ目は、昨年から世界中に大流行している新型コロナウイルスのことです。我が妻の姪の濱木珠恵（湖陵43期、北大医学部卒、ナビタスクリニック新宿の院長）は、昨年3月4日から10回、新型コロナウイルスについてTBS系（北海道内はHBC）テレビ「ひるおび！」に出演し解説を行いました。同窓生が全国生放送されることは珍しいことです。

田巻恒利（湖陵18期）

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL (0154) 43-3131
ホームページ
<http://kushiro-kouyo.hp.infoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一（湖陵19期）
- 同窓会会計長 佐藤文昭（湖陵22期）
- 編集委員長 星 匠（湖陵30期）
- 編集委員 堀川春昭（湖陵12期）
- 編集委員 奥田泰朗（湖陵25期）
- 編集委員 山本誠一（湖陵36期）
- 編集委員 西村貞広（湖陵30期）
- 編集委員 須貝喜治（湖陵49期）
- 編集事務局長 田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会

〒085-8650
釧路市黒金町7-13
TEL 0154 (22) 1111
FAX 0154 (22) 0050
釧路新聞社内 星 匠